



第三回 井上安寿子舞公演 葉々の会 ようよう

葉々の会



題字
橘宗義

平成27年2月7日(土) [開演] 15時(開場: 14時30分)

於 祇園甲部歌舞練場 ※上演時間は休憩を含む、2時間を予定しております。

一、四季彩 しよきのいろどり

【舞妓】 つる葉・豆そめ・真希り・小芳
 芸豆まる・千紗子・百佳司・章乃
 佳つ智・真咲・豆六・亜矢子
 舞佳之介・佳つ雛・恵里葉・市十美

二、地唄「鉄輪」 かねわ

井上 安寿子

三、義太夫「翁」 おきな

井上 かづ子

四、地唄「きぎす」

井上 八千代

五、義太夫「お七」

井上 安寿子

【地方】

祇園甲部地方連中

義太夫 竹本 駒之助

竹本 友香

鶴澤 津賀寿

豊澤 雛文

【鳴物】

藤舎 名生

藤舎 清鷹

中村 寿慶

望月 清三郎

美の心

平成27年 2月7日(土)

◎開演 15時(開場 14時30分)

※上演時間は休憩を含む、2時間を予定しております。


於 祇園甲部歌舞練場

〔主催〕井上 安寿子
〔協力〕公益社団法人片山家能楽・京舞保存財団
祇園甲部歌舞会

一、^{しきのいろどり}「四季彩」

〔芸妓〕 つる葉・豆そめ・真希の・小 芳
豆まる・千紗子・百佳司・章 乃

〔舞妓〕 佳つ智・真 咲・豆 六・亜矢子
佳之介・佳つ雛・恵里葉・市十美



祇園甲部歌舞会の芸妓・舞妓が四季の移ろいと共に華やかに舞います。お座敷でお馴染みの曲も出てまいります。

二、^{かなわ}地 唄「鉄輪」 井上 安寿子



能「鉄輪」からとった地唄もの。前半に捨てられた女の恨みを後半には女心の凄惨さを能の手法に近いところで表現しています。愛するが故に、鬼になってしまう哀しい物語で現代にも通じるものがあると思います。当流では代表的な本行物の一つです。

三、^{おきな}義太夫「翁」 井上 かづ子



四世八千代振付。天下泰平、国土安寧、五穀豊穰、千秋万歳を寿ぐおめでたい御祝儀曲です。四世の高弟であり、今も現役のかづ子によります厳かな舞をどうぞお楽しみください。

四、^{きぎす}地 唄「きぎす」 井上 八千代



近松門左衛門作の浄瑠璃「山崎與次兵衛寿の門松」をふまえたもので、発狂した恋人を介抱しながら雫子(きぎ)の鳴く春の野辺をさまよう傾城吾妻のせつない心を詠った曲です。

五、^{しち}義太夫「お七」 井上 安寿子



別名を『恋の緋鹿子』『櫓のお七』。江戸・本郷の八百屋の娘お七と寺小姓吉三郎の恋物語は、歌舞伎や浄瑠璃で語られ、数多くの作品が生まれました。大雪の降る夕方、木戸を開けるために火の見櫓に駆け上がり必死の覚悟で半鐘を打つお七のけなげさが胸を打ちます。

葉々の会 ^{ようよう}

井上安寿子主催の舞踊公演。日本舞踊家として本格的に芸の道を歩む決意を持って、勉強会として発足。公演名の由来は禅語「君が為ニ葉々清風ヲ起ス」。一葉一葉が清らかな風を吹き送り、門出を祝福しているの意。

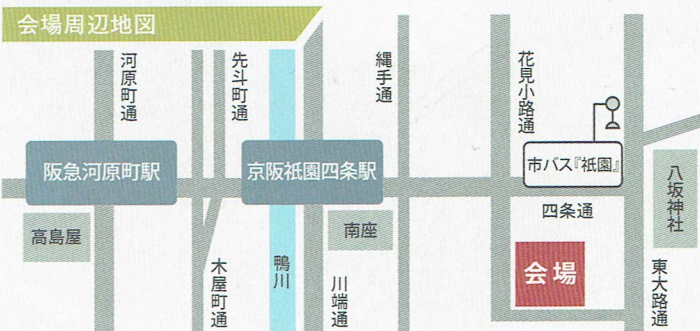
井上安寿子プロフィール ^{やすしこ}

昭和63年、九世観世鏡之丞と京舞井上流五世井上八千代の長女として京都に生まれる。平成3年6月6日曾祖母・四世井上八千代入門。その後四世及び五世に師事。三歳で四世井上八千代米寿会にて初舞台(上方唄「七福神」)。

平成18年井上流名取となる。

平成23年、京都造形芸術大学 舞台芸術学科を卒業。

平成24年、新進舞踊家 競演会において新人賞を受賞。

【チケット料金】

1階	¥6,000
2階(椅子席・棧敷席)	¥4,000
3階自由席	一般 ¥3,000
	学生 ¥1,000

※金額は税込みです。※未就学児のご入場はご遠慮下さい。

【チケット取扱い】(平日10時~17時)

井上流事務局 TEL 075-531-3350

【公演問い合わせ】(平日10時~17時)

井上流事務局 TEL 075-531-3350

学校法人 八坂女紅場学園(日祝除く) TEL 075-561-1118

公益社団法人 片山家能楽・京舞保存財団 TEL 075-551-6535

祇園甲部歌舞練場 京都市東山区祇園町南側570-2

〔電車〕京阪祇園四条駅・阪急河原町駅下車徒歩約10分 〔バス〕市バス「祇園」停留所 徒歩約8分

〔車〕歌舞練場は駐車台数が限られています。周辺の駐車場をご利用ください。